

福崎町文化

第40号 令和6年3月7日 兵庫県神崎郡福崎町福田176番地の1 福崎町文化センター発行



『民俗学のふるさと辻川』を執筆して

福崎町文化財審議委員 田崎正和



はじめに

令和五年三月、辻川区自治会から歴史読本『民俗学のふるさと辻川』が発刊された。

日本民俗学を樹立した柳田國男（昭和二十六年文化勲章受章）をはじめとする松岡五兄弟や松岡源之助を生み育てた辻川は、昔から商人・職人が商いしやすい（一方で村の土地が狭く分家がつくりにくい）町場であった。明暦元年（一六五五）に三木家が辻川村を選んで移住してきたのも、その後多くの先人が入れ替わり立ち代わりこの地に集ったのも、辻川に私たちが受け入れる「土壌」や「空気」があったからであろう。本書はそんな辻川の歴史を八十話の読み物にまとめた。本寄稿ではその中の四話（道・役場・学校・郵便局）を引用、再編集して紹介する。なお、

各話中の①・②・③・④は地図中の位置や表中の数字と同じである。

1 道（東西道）の変遷 地図1

① 平安時代からの道

峯相記（一三四八年）には有井村に一宿した慶芳上人が夢見に神積寺建立のお告げを受けたと書かれている。柳田は「黒」を憶ふ^{おぼむ}で「薬師堂は村では有井堂と謂って（中略）村が街道の両側に移る以前の、歴史



写真1
平成28年春の有井堂と新土堀
この道の東方に神積寺がある

を語って居る唯一つの遺跡であった」そして、この「御堂に詣って来る者は遠方の人ばかり多かった」と回想している。

平安時代の田原庄の記載「町史一・三巻」には山口社と有井寺が見える。当時の山口社は今の屋台蔵地にあつたと推定される

ことから、この段丘面上の、山口社から有井堂を経て神積寺への東西道（写真1）は九九一年の神積寺創建の頃には存在し、

当時の主要道であった可能性がある。また、この細い道が少なくとも明治前期（山口社は明治

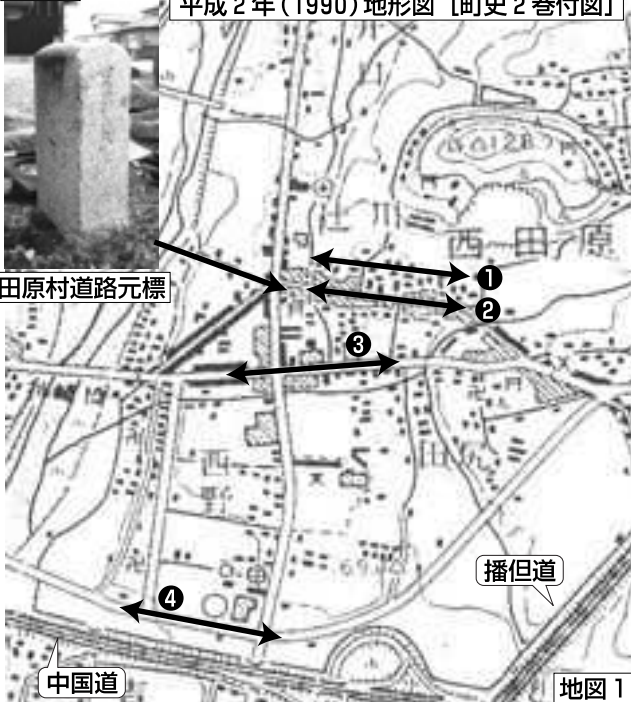
十年に鈴の森神社境内に移転）までは巡礼道だったようだ。

② 近世（江戸時代）から近代（戦前まで）の街道

三木家は明暦元年に姫路藩主の新田開発の呼びかけにに応じて、辻川村の現屋敷地へ移り住んだと伝わる。なぜ、三木家はこの地を選んで入植したのであろうか。それは当時すでに事業展開するための条件（交差する街道と大河、そして新たな移民を受け入れる土地柄）が辻川に揃っていたからではないだろうか。飾磨で酒屋を営んでいた商人としての才が辻川を選ばせたと考えられる。屋敷の裏には旧道①があり、表にはすでに街道②ができていたようだ。現「大西」松岡家には松岡一族が永禄年間（一五五八〜一五七〇）に辻川に入ったという記録が残る（今でも正月には一六五〇年代の承応と明暦のお膳を使用）。三木家が辻川に入る約百年前から街道筋には松岡家を中心

に家が増えつつあった。三木家は2代目吉忠が内蔵（一六九七）、主屋（一七〇五）、酒蔵（一七二三）を建設し、3代目善政が一七三七年に辻川組大庄屋となり、その後幕末まで大庄屋を務めている。三木家には南の街道を年貢米、行商人、旅人、そして時には姫路藩の藩

写真2



平成2年(1990)地形図 [町史2 巻付図]

田原村道路元標

播但道

地図1

中国道

主や家老の一行が行き交った記録が残る。また、年貢米はこの街道を通り、駒ヶ岩船着場から高瀬舟で飾磨港へ下り、その後千石船で大阪の蔵屋敷へ運ばれた。

人々の往来が多い街道沿いの町場は明治期になってさらに発展する。その起爆剤になったのが明治九年に完成した「銀の馬車道」と明治一九年に建った神東・神西郡役所（同二



写真3 明治末期～大正期の神崎郡役所

街は大きく様変わりする。何と云っても現辻川北交差点から西野への直線道路がついたことが大きい。馬車や荷車による物流と行政・管理機構の拠点であった辻川と、鉄道により発展する福崎駅前をつなぐ神崎橋が完成したのは明治三〇年（昭和六年までは木橋）であった。

辻川北交差点脇には大正一一年設置の「田原村道路元標（写真2）」が今も立つ。旧田原村内の道路（現県道西田原姫路線）の起点を示すも

のである。

③戦後の新道、そして④へ

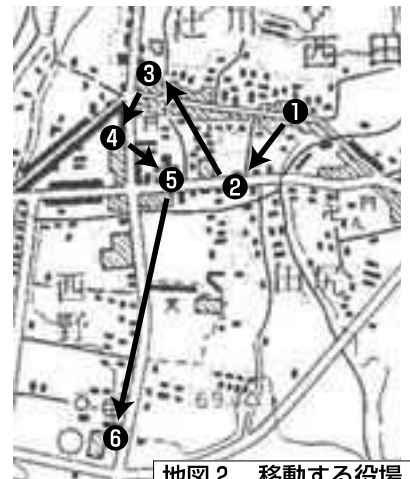
昭和二四年頃に開通した県道三木山崎線（現町道田尻辻川線）によって辻川の風景はさらに変化する。旧来の「東所」「中所」「西所」に「新開地」が加わったのである。この道沿いに同二六年に竣工した神崎地方事務所（写真5）は旧郡役所の機能を持っていた。その後、同三二年頃

にこの建物に移転してきた町役場は、現庁舎へ移る昭和五〇年までの約二十年間この地で町行政を執り行った。

昭和四八年の播但連絡道砥堀〜福崎間開通と、翌四九年の中国自動車道西宮北〜福崎間の部分開通に始まる高速道路網の整備に伴い、道はさらに南へ変遷する。昭和五八年（一九八三）には福崎大橋が開通し、役場南の新道④（現県道三木宍粟線）が東西交通の幹線道路になっていく。辻川の東西道は平安時代から、時代の求めに応じて南へ南へ移動しながらその周辺に新たな街をつくってきた。

2 役場などの変遷 地図2・3・7

明治四年（一八七一）に公布された戸籍法では、新たな戸籍を編成するため、より大きな行政単位として複数の村からなる区画を設定し、



地図2 移動する役場

その区画に戸籍を取り扱う役人として戸長・副戸長を置くことが定められた。この制度により神東郡は第九大区になり五つの小区に分けられ、辻川は第九大区第三小区になった。その後、明治一二年に郡が復活。神東郡・神西郡は小郡であったため二郡まとめて屋形村に郡役所が設けられた。そして郡には郡長、町村には戸長が置かれた。

①当初（明治四〜五年）

の戸長役所は三木家に置かれたようだ（但し、明治二四年頃の田原村役場は、地図3では東三木家か、その西の現もちむぎのやかた地辺りに見える。三木家に次の②まで役所が置かれたか否かは不明）。

一方、神東・神西郡役所は明治一九年一月に辻



地図3

明治24(1891)年神東・神西郡地図【町史4巻付図】

川に移転し、同年七月に新庁舎が建設された（写真3）。「僅か八十戸か百戸足らずの部落であった辻川でも、時代の影響をうけて、私らの目前で変って行くのがよく判った。いちばん大きな力となったのは郡役所である」「故郷七十年「辻川の変化」。

この郡役所はその後、明治二九年に神東郡・神西郡統合に伴い神崎郡役所になり、大正一五年（一九二六）の廃止まで、徴税・徴兵・教育・町村の監督など郡の中核機関として多様な職務を行った。

②明治三五年頃の地図7では、今の神戸マツダ付近に役場が見える。

③明治末期頃から昭和一〇年（一九三五）頃まで、田原村役場は辻川北交差点の少し北にあった。大正九年の鈴の森神社改築上棟式ではこの役

場を起点に北へ屋台などの練物(ねりもの)が十五台(田原地区以外では山崎・新町・八幡からも)並んだ。この地に役場が建つ前には明治二三年頃から税分署があった(地図3)。当時の庁舎は木造平屋建てで約五十坪の大きさで、木造二階建延八坪の倉庫も一棟あった[かたりべ2集]。

一方、郡役所は大正一五年に廃止になり町村は県の直轄となった。この庁舎には同時期に郡団体事務所が開設され、郡農会など一八団体が使用することになった[神崎郡誌]。

地図3では郡役所の西に登記所が見える。「故郷七十年」でもよく登場する上坂(うへさか)の(現登記所跡地)に、姫路治安裁判所西田原出張所が郡役所内から移転してきたのが明治三二年(一八八九)。翌三三年には姫路区裁判所田原出張所と改称し、神戸地方裁判所の管轄になっている[神崎郡誌]。

登記所と裁判所の機能は一体のようだ。裁判所は明治四五年に大修繕している。



明治45年裁判所大修繕落成 [町教委蔵]

「上坂の登記所」(神戸地方務局福崎出張所)は昭和五年(一九七七)三月まで約九十年間この地で事務を執り行い、その後役場新庁舎(現庁舎)北隣へ移転した。



昭和50年頃の登記所
クスノキ1本と門柱脇右の
コンクリートの今も残る。



昭和12年、鈴の森神社境内からの眺め

4 田原村役場は昭和一〇年頃に現JA福崎東支店地に移転し(写真4)、ここで戦前戦後の混乱期を乗り越え、昭和三一年(一九五六)の福崎町合併を迎えることになる。新福崎町は五月に誕生した。町名を福崎、町役場を旧田原村役場に、**写真4** として初代町長には旧八千種村村長が就任した。



JA福崎東支店地にあった村役場

一方、旧郡役所の機能を持つ神崎地方事務所の新庁舎が昭和二六年に現「福崎歩道橋」西に竣工した(写真5)。この庁舎は同三〇年九月に閉鎖され、その後は福崎団体事務所として利用されていた。



写真5

5 昭和三二年頃に町役場がこの元神崎地方事務所の建物に移転し、その後昭和五〇年に現庁舎**6**へ移るまで二十年弱、「新開地」のこの地で町行政を担った。

3 旧辻川郵便局の沿革 **地図4・5**

大正一二年に三木拙二(ちくじ)によって新設された旧辻川郵便局舎(写真6)は平成二八年夏まで三木家西隣(地図4・5の**2**)にあった(写真7)。この地は三木家の「にしら」と呼ばれ、大正六年頃に所有者が三木家から代わったようである。

郵便局開設は明治一五年の西田原郵便局にさかのぼる。明治政府は地元の名士(かつての庄屋など)から土地と建物の一部を無償で提供してもらい、その代わりに彼らを「郵便取扱役」に任命して準官吏の身分を

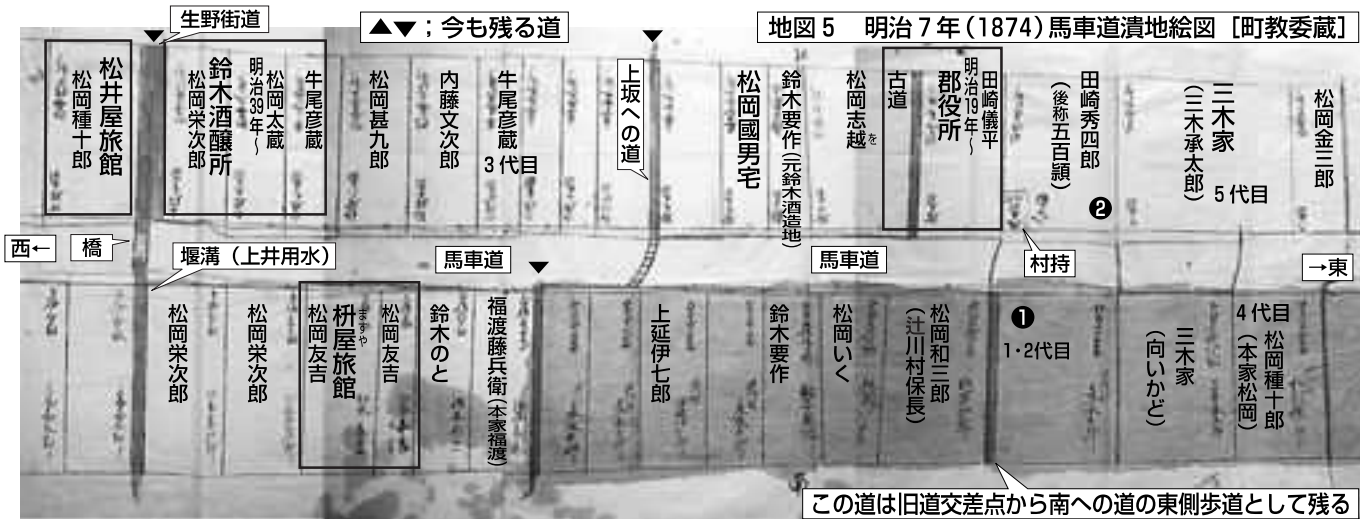
与え「公務」である郵便業務を請け負わせた。この郵便制度に手を挙げたのが三木家を手伝っていた同族の埴岡仙吉(地図4の**1**)であった。



地図4

1840年頃の古図 [広報ふくさき2013年3月号三木家よもやま話第83話、三木家「諸事控四番」町教委蔵]

明治二五年に電信局の付設が許可され、郵便為替や電報の取り扱いが始まった。國男少年が数え年九歳で北条まで兄からの送金を受け取りに行っていた明治一六年頃の西田原郵便局にはまだ為替の取り扱いはなかった。2代目局長の埴岡僊嗣は仙吉の子か。3代目局長の牛尾彦十郎(明治一六〇二五年に県会議員)は、街道筋に土地を所有していた中島村の牛尾彦蔵の子と思われる。彦蔵も当時の名士で、明治三〇年の三木家での「新嘗祭供御献納」祭典に招待さ



辻川郵便局の沿革 [神崎郡誌, 明治23年法令全書, 表中*1は故郷七十年, *2は神東神西部沿革考]

年	新たな取扱事務等	歴代局長	位置	在職年月 (備考)
明治15	西田原郵便局創設	〈初代〉 埴岡仙吉	①	明治15年10月～同23年3月 (明治16年頃、國男少年は兄からの送金(為替)を北条まで取りにやらされていた [兄嫁の思い出]*1)
明治18	郵便貯金			
明治23	辻川郵便局に改称	〈2代目〉 埴岡僊嗣	①	明治23年3月～同29年12月 (郡役所で組合会開催、25年6月「辻川電信置局許可二付設置費逓信省へ301円9銭9厘献納」報告同年8月「建設費途金200円無利息貸与」審議*2)
明治25	郵便為替			
明治26	電報 (和文)			
明治29	郵便局経営者交代	〈3代目〉 牛尾彦十郎	①	明治29年12月～大正9年10月
大正8	公衆電話通話			
大正9	郵便局経営者交代	〈4〉松岡愛次	①	大正9年10月～同11年8月
大正11	郵便局経営家交代			
大正12	電話交換	〈5代目〉 三木拙二	②	大正11年8月～昭和18 or 19年
終戦前	郵便局経営者交代			
昭和31	福崎郵便局に改称	〈6代目〉 三木冬二	②	昭和18 or 19年 [三木家文書] ～同35年? (5月新福崎町誕生)
昭和35	旧役場南へ移転			
昭和42	田原小学校西に福崎電報電話局新設 (電話自動化) →旧辻川郵便局役目終える			
平成20	②の建物が国登録有形文化財 (翌21年には県指定景観形成重要建造物にも) 指定			



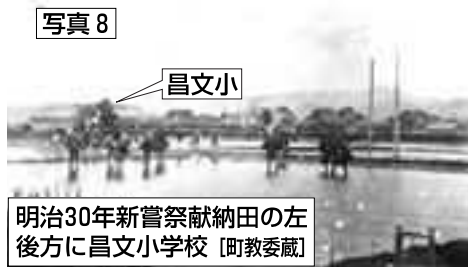
れている。4代目局長の松岡愛次は「本家松岡」最後の当主鈴木氏の父(地図5の種十郎の孫)に当たる。5代目の拙二は三木家9代当主(同承太郎の子)。6代目局長の三木冬二は東三木家(天保一四年(一八四三)から山崎組大庄屋)4代当主卓一の弟で、辻川区内で戦後に分家した。冬二の子である素位氏は平成二八年、局舎を福崎町に寄付した。

4 学校の変遷 [地図3・6・7]

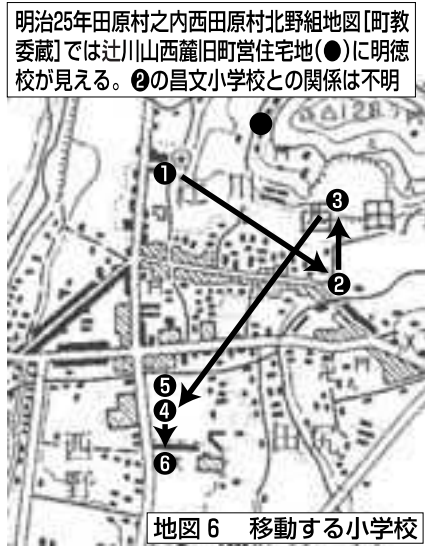
① 明徳小学校が明治六年二月、西田原村二三七番地(現保健所付近)に設置されるも同年五月に東田原村に移転。その後、明治八年一月に元の辻川二三七番地に戻っている。どうやら、明治七年四月の辻川村挙げての寄附百三円九十五銭が奏功したようだ(その寄附者書上帳には三木承太郎、松岡種十郎、三木武八郎、福渡藤兵衛、鈴木要作、田崎秀四郎、松岡福五郎(源之助父)ら辻川関係者計八十一名の氏名(地図5参照)が見える「伊藤源五氏蔵」)。明治九年に、明徳小学校と同時期に設置された田原村内の五校が合併し昌文小学校と改称。その後、分割、辻川村内での移転を経て:

② 明治一六年七月、西田原村字西廣岡九八番地に昌文小学校新校舎が建った(写真8)。

「故郷七十年」で柳田は「辻川の南を岩尾川(雲津川)という綺麗な細い川が流れている。(中略)



その少し上流に岩尾神社というお宮がある。妙徳山の鎮守さんだったらしい。それに向って左の所に私らが通った昌文小学校があった」「洒落の解る子供」と記している。この昌



明治25年田原村之内西田原村北野組地図[町教委蔵]では辻川山西麓旧町営住宅地(●)に明德校が見える。②の昌文小学校との関係は不明

地図6 移動する小学校

の組合立)が建った(地図7)。その後明治三十七年に田原尋常高等小学校と改称し、同四〇年に南田原尋常小学校と合併、そして:

文小で國男少年は卒業前の一年を過ぎた。國男は長兄^{かみえ}鼎が明治一年に十九歳で昌文小学校校長になったこともあり、翌一二年に数え五歳で入学し飛び級を重ね、同一七年一月に十歳で卒業した「二〇〇九松岡房夫氏」。



地図7

学校が2校(右が昌文小
左が神崎高等小学校)

田原村役場

明治35年頃の地図
[読本「福崎と柳田國男」]

昌文小学校はその後、明治三三年に現辻川山グラウンドの南西寄りに移

転。同三五年には現養護老人ホーム福寿園付近に神崎高等小学校(田原・福崎・八千種三村

4明治四一年七月、現田原小学校地に田原尋常高等小学校新校舎が落成した(写真9)。その校舎北側に昭和一年五月新講堂が建った。「雲津川は尻無川と言われ(昭和二年まで)現在の学校北側の川はなく田尻から南へ溝によって排水されておりました。降雨の為に氾濫し学校附近は水

写真9



明治41年 初代校舎建つ(田原尋常高等小学校)



昭和17年 2代目校舎建つ(田原国民学校)



昭和54年 3代目校舎建つ(田原小学校)

浸しになる事は再三でした。旧講堂は元土間であり水の中で式典が行われた事もありました。(中略)(そのため)腐朽甚だしく倒境(倒壊)寸前にありました時、辻川出身松岡源之助翁の篤志により鉄骨木造当時県内でも有数の近代建築の建立を見ました(写真10)。(田原)村を上げて感激した事は云うまでもありません」「かたりべ2集「田原村役場時代の行政機構」佐野一雄」

写真11

5昭和一七年五月、2代目校舎、田原国民学校が前尋常高等小学校の北運動場に建ち(写真11)、講堂と渡り廊下でつながった。この校舎が昭和二二年四月に田原小学校となり、昭和五四年八月に現3代目校舎(6・写真12)が建つまで大切に使われた。油拭きされた廊下の匂いが懐かしい。現校舎南のフィールドアスレチック

写真12

「追記」本書は辻川全世帯と近隣の図書館、町内小中高校図書館、町内公共施設などに配布している。参考・引用文献や写真の出典は、「福崎町史」、町立神崎郡歴史民俗資料館特別展図録「20世紀の福崎」。「明治の福崎」。「郡役所ものがたり」、田原小学校記念誌「柳の木とともに」。「まなびの郷」、福崎町教育委員会所蔵の三木家文書・写真などである。

地には旧田原中学校校舎があった。新たな歴史を創る子供たちが育つ。おわりに
本書は基本的に昭和期までの辻川や福崎町しか扱っていない。また、残されている文書や記憶がどうしても辻川に置かれた大庄屋三木家や多くの官公庁が主となるため、歴史の大半をつくってきた庶民の日常を掘り起こすまでには至っていない。これから本書を手に取りこの界隈を家族や友人と歩かれるなかで、新たな辻川史が発掘されることを願っている。さらに、辻川に関わる皆さんが本書を通じて地域の歴史や文化を知り、先人の営みを想い起こし、今生きる社会を考え、私たちの福崎町に誇りを持って生活してほしいと思っている。

田原・八千種の狛犬

福崎町教育委員会社会教育課 渡辺昇

一、はじめに

獅子狛犬は仏教伝来とともに日本にもたらされたと伝えられている。獅子は本来ライオンとして霊獣化神格化し、東遷し中国・朝鮮半島で虎・龍などの神獣と合わさり、新たな変化をして仏教化する。日本には仏教に伴って入ってきたと思われるが、一部鏡・大刀などの威信財の中に神格化の象徴として先んじて入って来ているようである。狛犬はほぼ仏教とともに本尊などの守護として導入され、木造狛犬が作成され長きにわたる。木造以外にも石造・瓦製・金属製があるが、あくまで木造が主体で大半を占める。これらは当初は中国の影響を受けたが、どちらかと言えば和風で日本の中で変化していったと思われる。この時期の石造狛犬としては笏谷石で作られた越前狛犬が代表例で日本海側を中心に分布している。それが参道狛犬として社殿外部に位置するようになったのは一般的に中世末になってからである。ただ、地域的に外部に祀られていた石造狛犬は多数知られている。狛犬

が社殿から屋外に出たのは、徳川家康を日光御廟に祀る際に石工による遊びごころによる玉垣の狛犬を見て広まったとも伝承されている。東照宮つながりで日光から江戸・駿府へ、参道狛犬としては江戸から大坂へ、そこから徐々に全国に広まったと言われてきた。また、同様に日光東照宮の狛犬を見た武士が奉納したと伝えられる岐阜県安八郡神戸町日吉神社の重要文化財に指定されている狛犬があるが、後続例がなく系譜が不明瞭である。通説では参道狛犬としては東京都目黒区目黒不動尊の承応三(一六三八)年の狛犬が最古と言われており、そこから伝播したと言われている。

二、狛犬の分類形態と石材産地

以下、狛犬の説明するにあたり簡単に記述方法などを記す。参道狛犬は東照宮からはじまり江戸で作られ、各地に広がっていく。その過程で特徴的な狛犬が各地で作られる。その中で広域流通するものと地域流通するものがある。広域流通するものは

江戸狛・三河狛・浪花狛・尾道狛・出雲狛である。時期によっても変化

が多いが、産地によっては石粒を含む凝灰岩もある。

するが、広く分布が知られている。名前が示すようにその地名の石工が主に現地の石材を使って作成したものである。江戸狛だけ少し離れた伊豆半島の石材を使用している。三河狛は石材が領家花崗岩であり、当初は三河の石材であったが、新しくなるとその技法を他地域で採取される

同種の領家花崗岩(香川県など)で作られるようになり全国に版図を広げており、現代では大多数を占める。石材は花崗岩・凝灰岩・砂岩・安山岩などが使われている。採取地名を石材名にしているものが多々あり、分別できるものは産地名で呼称している。科学的な鑑定・分析ではなく、あくまで筆者の肉眼観察であることをお断りしておく。花崗岩は山陰型・山陽型・領家型に分け、山陽型の中の六甲花崗岩(神戸市他)だけは確実なものだけ六甲としている。福崎で狛犬として使われている石材名では

来待石(松江市)・和泉砂岩(阪南市他)・撫養石(鳴門市)が砂岩、高室石(加西市)・猪崎石(たつの市)・竜山石(高砂市)が凝灰岩である。神戸層群としたのは加東市から三田市にかけてに産する石材で、東播磨では池田石とも呼ばれる。砂岩質凝灰岩

複数存在する狛犬は狛犬研究の基本図書であるねずてつや氏の分類に準じて便宜的に本殿から近い順にa・b・cと呼称している。台座などの面は狛犬に向かって左右・表裏面とし、狛犬本体は狛犬から見た右前脚などと記す。大きさなどの数値は表1を参照いただきたい。狛犬の髪のうち首周りにある先が尖っているものを剣状髪、その先端に丸くなっている部分を巻毛と呼ぶ。

三、田原・八千種の狛犬

狛犬の状況調査は原則的に国土地理院の二万五千分の一地図と兵庫県神社庁名簿から調査を行った。通りがかつた神社も対象としているが、会社などの私的なお宮は対象としていない。狛犬は寺院にもあるが寺院は悉皆調査しておらず、田原・八千種すべての狛犬を調査していない可

能性もある。

以下町域の狛犬の概略を記す。数値などは表1に譲り、細かく記さない。神社名前の数字は表1の神社No.である。狛犬設置社のみ記すので未設置社の番号はとんでいる。神社名は神社庁名簿によるが、一般に呼称されている名称を併記した神社もある。二〇二〇年末段階での一覧であり変化していることは十分に考えられる。

① 恵美酒神社(井ノ口)

井ノ口集落北側の山塊丘陵部の市川を見下ろすところに占地する。四対の狛犬と二対の狛狐が存在する。狛犬c・dは先代になっており、狛犬cは社務所横に台座とともに置かれている。狛犬aの下部台座は高室石で明治三十八年の年号があり、その年代の出雲狛犬である。狛犬dは参道の手水鉢横に並んで狛犬だけが保存されている。来待石で作られた出雲の構え型であり、狛犬c同様に狛犬bの台座年号から昭和八年と思われる。狛犬a・bは領家花崗岩で



恵美酒神社 狛犬a

作られた岡崎型狛犬である。台座上は領家花崗岩であるが、下の台座はともに先代台座を使用している。aの台座は上一段が領家花崗岩、二段目が来待石、三段目が高室石である。基本的には岡崎型であるが、地元石工の手によるものであろうか。特にaは顔が丸く表現が異なっている。

② 鈴ノ森神社(辻川)

辻川山公園北側の丘陵上に鎮座する。二対の狛犬が存在し、aは玉垣内側の拝殿軒下に位置している。髯崎石で文久三(一八六三)年に個人によって奉納されている。柳田國男が



鈴ノ森神社 狛犬a

詠んだ「うぶすなの森のやまも高麗犬は懐かしきかなもの言わねども」の狛犬であろう。巻毛大きく立体的で、髪も長めである。眸には低い小さな角が認められ尾などの意匠は浪花石工の影響を受けたものと思われる。bは昭和八(一九三三)年の砂岩質の石材で作られた子取り玉取りの狛犬である。子狛が立ち上がって右前脚にじゃれつく状態など丹波石工によるものと思われる。台座は領家花崗岩である。北海道に移った松岡家子孫による奉納である。



鈴ノ森神社 狛犬b

④ 北野天満神社(北野)

辻川山の東山麓の辻川山を挟んで鈴ノ森神社と対称の位置に存在しており、長い参道を有している。狛犬は撫養石で作られた阿波型で明治四十四(一九一)年である。阿は口先

に小さな玉を銜えており、前脚は反っている。髪は編んでおり、阿眸ともに上方を見ている。拝殿横に蛇紋岩製の牛が一体だけ置かれている。明治三十(一八九七)年で姫路市石工西川とある。



北野天満神社 狛犬

⑤ 熊野神社(田尻)

銀の馬車道沿いに位置する旧郷社である。二対の狛犬があり、aは阿波型と称する徳島県の撫養石で作られている。大きな垂耳で阿は口先に小さな玉を銜えている。口中に玉を配する通常の玉ではなく、狐のような玉で銜え方も口先で同様である。松岡家・三木家などの奉納である。bは高室石で頭が大きく巻毛が大きく横耳である。蠟燭尾で阿眸ともに下方を見ている。神農講の奉納である。

⑦大年神社（大門）

神積寺東側の山麓に位置しており、山麓西側には岩尾神社が存在する。二対の狛犬があり、aは高室石で作られている。団扇尾と蠟燭尾の中間形態である。顔は丸みがあり、身体はやや太めで、眼珠表現が線でなされている。垂耳で愛嬌のある顔付きで、斜め四十五度で上向きである。特徴的なのは狛犬の足台に脚が付くことである。明治三十四年の個人寄進である。軒下にあることから残存状態は良好である。阿には性器が表現されている。bは砂岩質の石材で神戸層群かと思われる。台座は高室石である。大正十二（一九二二）年に



熊野神社 狛犬a



氏子中によって奉納されている。前脚は斜めでやや細めで、尾は蠟燭尾である。ただ、来待石と比べて底面が大きい。阿畔台座側面に別の家紋が彫られている。顔に特徴があり、上唇中央が大きく上がっており、歯も即して弧状になっている。犬歯は大きく尖っている。台座には来待石のような脚を付けるが、装飾はない。阿には性器が表現されている。



大門大年神社 狛犬a



⑩大歳神社（亀坪）

日光寺の南麓谷部に位置している。高室石で作られた安政四（一八五七）年の近世狛犬である。顔の表情などは浪花狛犬の影響を強く受けている。団扇尾であるが、幅が狭く上が三峯になっている。四角い石取りで、巻

毛は立体的である。犬歯が二対あり上の歯は带状になり丁寧な一本ずつ彫っていない。拜殿軒下に位置していることから保存状態は良い。



亀坪大歳神社 狛犬



⑪田嶋神社（西野）

市川左岸堤防沿いの駒ヶ岩の南に鎮座している。平成五年に建てられた領家花崗岩の狛犬である。子取り玉取りで蠟燭尾の変形である。阿は左前脚下に玉を置き、開口しているが口は四角に近く、歯も犬歯以外は四角に作っている。畔は右前脚下に子狛を配置している。子狛は正面を向く。巻毛は立体的で横耳に仕上げ、前脚は斜めで走り毛を有する。顔も縦長でなく丸く、子取り玉取りで領

家花崗岩によって作られるが、岡崎型ではなく地元石工によるものと思われる。

⑫三十八神社（吉田）

市川左岸の平地の集落内に鎮座している。平成六年に作られた領家花崗岩の狛犬で、縦長の顔や炎尾など岡崎型の特徴を明確に示している。境内に六甲花崗岩の台座だけが残されており、先代狛犬は浪花狛犬だったかもしれない。

⑬八坂神社（八反田）

三十八神社同様に市川左岸の平地の集落内に鎮座している。山陽型花崗岩で作られた地方色の強い狛犬である。台座は高室石で大正十二（一九二二）年の奉納である。蠟燭尾で



八坂神社 狛犬



大きな垂耳であるが、胴は長く足裏は小さく低い。幾つかの要素が混じっている折衷様式で地元石工の手によるものであろうか。口先に玉を銜えており、巻毛は大きく下顎が発達している。

⑭ 與井神社（中島）

市川左岸で南田原の平地の集落内に位置している。二対の狛犬を確認している。aは領家花崗岩で作られ、炎尾や背中髪の毛の状況は岡崎型に通じるが、全体的には先代を模したのではないかと思われる。巻毛が大きい点や首が長い点は八坂神社狛犬に通じるものがあり、先代は同一石工の手によるものと推測される。ただ境内に先代として置かれているbは別物である。八坂神社狛犬とは別系統であるので、もう一対存在した可



與井神社 狛犬

能性がある。bは口先に玉を銜えているものの顔は丸みがあり、首も通常である。

⑮ 藤田神社（長目）

市川左岸の氾濫原などの低地南側の独立丘陵上に位置している。平成十六（二〇〇四）年の領家花崗岩で作られた狛犬であるが岡崎型ではなく先代を模したものであると思われる。先代は来待石の出雲狛犬であらう。

⑯ 住吉神社（西光寺）

西光寺野と呼ばれる段丘上に鎮座している。東側を銀の馬車道が通り、南側も加西北条方面からの往還になっていた。平成二十二（二〇〇八）年の岡崎型狛犬である。上の台座は狛犬と同時に作られた領家花崗岩であるが、その下は六甲花崗岩で先代の台座と思われる。昭和二十九年とあり、石材から先代は浪花狛犬だったかもしれない。

⑰ 日吉神社（西大貫）

高峰山から延びてくる大善寺がある支尾根に開析された谷部が認められ、その一つの谷奥部に存在する。天保六（一八三五）年の大枠では浪花的であるが、やや個性を有し高室石製と思われる。砂岩質なので神戸層

群かもしれない。ずんぐりしており、尾は五峯を持つ。胸に深い圏線があり、横耳で背骨表現がある。畔には少し前後に長い円錐の短い角を持ち、顔はやや扁平である。



日吉神社 狛犬



⑱ 天満神社（東大貫）

日吉神社の東側に位置するが、谷部でなく丘陵部に鎮座している。日吉神社と同じく高室石で作られたずんぐりした狛犬である。台座も高室石で、天保十（一八三九）年氏子中の寄進である。全体の作りは浪花的であるが、頭部が平坦で顔はやや扁平である。前脚付け根の上下にある圏線が特徴的である。

前脚は斜めで足裏小さく口は端部が大きく上がったカエル口になっている。



天満神社 狛犬

⑲ 大年住吉神社（南大貫）

住吉山の北西山麓に位置している。明治二十四（一八九二）年の撫養石で作られている阿波型である。台座下半は高室石である。右阿は口先に小さな玉を銜えて斜め上方を見る。犬歯は二対あり口元は大きく反っている。歯は小さく四角で一本ずつ彫っている。鼻・垂耳は非常に大きく、前脚は外側に反るガリ股になり、指・爪は大きい。頭頂は尖りぎみで顔は扁平である。体部には筋肉が表現され、蠟燭尾である。左側も開け方は少ないが開口しており阿で良いと思われ、両方阿の珍しいタイプである。



大年住吉神社 狛犬



余田大歳神社 狛犬a



⑳余田大歳神社（余田）
住吉山と春日山に挟まれた平地の南東部に位置している。南側には北条へ向かう道（現県道四一〇号）が通っている。二組の狛犬がある。aは拝殿前にある福崎町で最も古い狛犬である。高室石製の天明四（一七八四）年奉納の狛犬である。先学に指摘されている通り、同年製作で同じ石材の姫路市菅原神社cと意匠は類似し共通点が多く同一石工によるものと思われる。ほぼ内側に向き合うように設置されているが、参道から見て左側に阿形が位置する配置を採っており、福崎町では唯一の配置例である。氏子中の奉納で明治四十年代に台座修理が行われている。阿

形は開口しているが大きくは開かず、大きな舌を有している。顔は丸く垂耳である。前脚は直立し脚中央が細く上下に太くなっている。付け根側面の大きな巻毛が特徴的である。尾は素朴で付尾風で腰部に接し、先は尖っている。咩形は大きな犬歯を持ち歯は四角で、頭頂に円錐形の角を有する。髪は房状で太く長い。阿咩が向かい合うが、阿は上向きで咩は左に少し曲げて下向きである。口部分の前に出ており、目・鼻ともに大きく立体的である。

bは末社前に配置されたものと思われるが、現状は木の根元に埋まっております。阿形頭部のみ観察できる。高室石で口先に玉を銜えている。通常の高さ六〇cmぐらいの大きさと思われる。頭頂は丸く、目は大きい。歯は四角で垂耳である。

㉓地神社（若宮神社 庄）

庄の集落内にある神社である。額は若宮神社となっているが、神社庁名簿では地神社とあり、地元でも地神社と両方使われている。大正二年奉納の撫養石で作られた阿波型狛犬が存在する。個人名が記され、台座は領家花崗岩で後世の修復である。大きな垂耳で阿は口先に玉を銜える。典型的な阿波型の特徴を示している。

㉔松永神社（庄）

庄集落西側で平田川西側の段丘面に位置しており、赤鳥居が際立っている。aは本殿前にあり狛狐である。大正十五年奉納の高室石製の石工名「石工中野仙□」が記されている。bは高さ二三cmと小形の高室石製の狛犬である。蠟燭尾から髪が体部に延びている。四角い石取りで後脚側に菊花文が施されている。

㉕熊野神社（鍛冶屋）

鍛冶屋集落の東側の春日山西麓に位置している。撫養石で作られた阿波型狛犬である。明治二十九年の当村氏子中の奉納である。口先が尖り上方を見ている。尾の先が後方へ反っている。前脚は左右に開き、筋肉表現がなされている。



地神社 狛犬



四、おわりに

田原・八千種の狛犬調査結果は対象神社二七社で、狛犬二七対（余田大歳神社は阿のみ）、狛狐三対、牛一体を確認した。二七社のうち狛犬がいるのは一九社である。狛犬設置率は七〇、四％と兵庫県では一般的な数値であるが、全国的には高い数値である。複数あるのは六社あり、先代台座がある神社が二社ある。最も多いのが恵美酒神社で先代二対を加えて四対の狛犬と二対の狛狐が存在する。他の五社は二対だが、與井神社は先代で、松永神社は狛狐である。

時代ごとの奉納年は図1の通りで、最古は余田大歳神社aの天明四（一七八四）年、最新は西光寺の住吉神社の平成二十（二〇〇八）年で、奉



熊野神社 狛犬



図1 年代ごとの狛犬の数

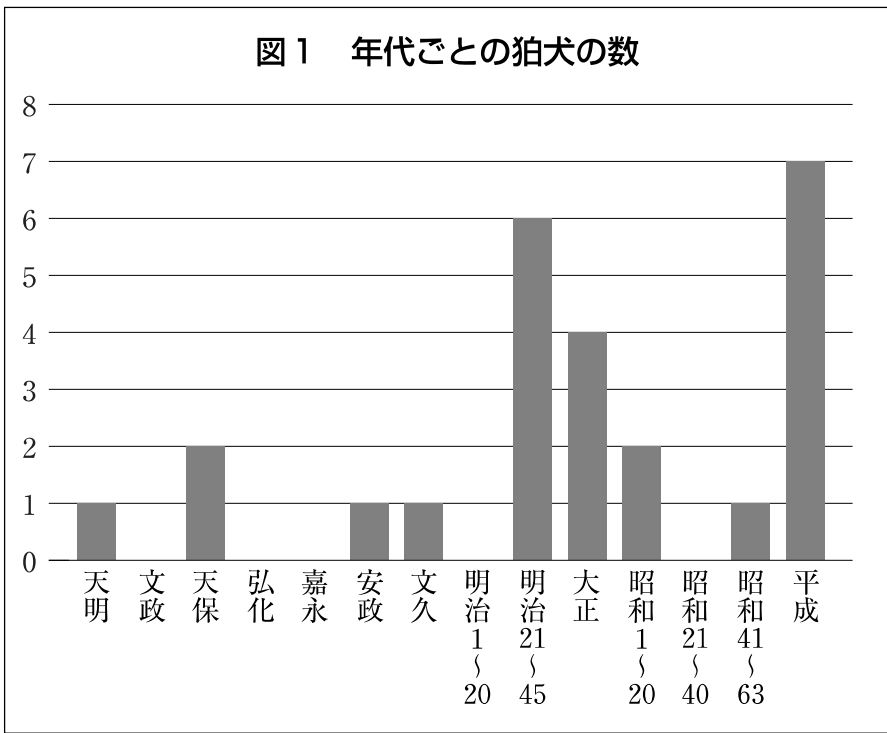
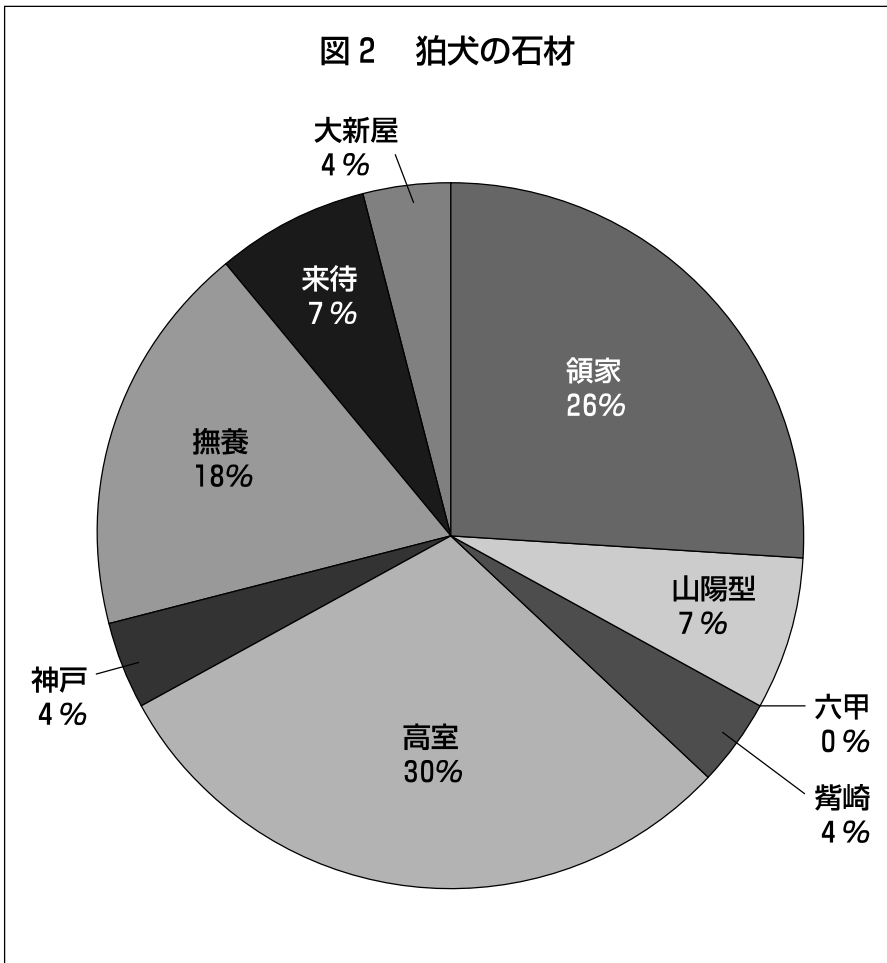


図2 狛犬の石材



納年に二二四年の開きがある。時期分布は江戸時代後期が五対（天明から文久）、明治が六対、大正が四対、昭和前半が二対、昭和後半が一对、平成が七対である。平成年間が最も多いことになり、最近建て替えが行われたことを証明している。奉納の中心は明治後半から昭和前半にある。第二次世界大戦後のものが一对しかないのは少なく、この地域狛犬の特

徴の一つと言えるかもしれない。年号が不明なのは余田大歳神社と興井神社の二つで明治期かと思われる。紀年銘が不明なのが二例というのは非常に少ない。
石材は、領家型花崗岩が七、山陽型花崗岩二、髻崎石一、高室石八、神戸層群一、撫養石五、来待石二、大新屋石一である。領家型花崗岩は平成に限られている。最も多く使わ

れている石材は高室石で、江戸時代から昭和まで幅広く使用されている。地域的に隣接していることから高室石の文化圏に入っていると言えよう。髻崎石と神戸層群も比較的近い地域からの搬入であるが、それ以外は離れた地域から運ばれている。来待石は販路が広く日本海を中心に九州から北海道まで広がる。特徴的な石材は撫養石で阿波型と呼ばれる口

先に玉を銜えるタイプで徳島からの搬入品である。山陽型花崗岩も阿波型の影響を受けたもので姫路石などが作成したと思われる。大新屋石は丹波石工の作成である。
石工名は松永神社aの狛狐に石工中野仙□と北野天満神社の牛に姫路市石工西川と二例あるだけで、石工名の少なさは特徴の一つである。

表1 田原・八千種の狛犬

狛犬 No.	神社名	年号		石材		寸法(幅・奥・高)		銘など	形態
		和暦	西暦	狛犬	台座	阿形	吽形		
	①恵美酒神社(井ノ口)								
1	a	平成元	1989	領家	領家	26・62・70	30・63・71	個人名	岡崎型
2	b	平成5	1993	領家	領家	24・53・58	28・55・56	個人名	岡崎型
3	c	明治39	1906	来待	来待	30・56・50	32・56・61	青年会、個人名	
4	d	昭和8	1933	来待	来待	30・56・50	32・56・61	青年会、個人名	構え型
	e			領家	高室	15・36・41	15・38・40	狐	
	f			高室	高室	14・33・39	14・32・39	狐 先代	
	②鈴ノ森神社(辻川)								
5	a	文久3	1863	髯崎	髯崎	32・54・66	32・56・69	個人名	
6	b	昭和8	1933	大新屋	大新屋	40・78・64	36・66・73	個人名、家紋	
	③高藤稲荷神社(辻川)	—	—	—	—	—	—		
7	④北野天満神社(北野)	明治44	1911	撫養	高室	24・46・55	28・46・58	個人名 氏子中	阿波型
	⑤熊野神社(田尻)								
8	a	明治35	1902	撫養	高室	34・64・86	35・66・86	個人名	阿波型
9	b	昭和4口		高室	高室	23・48・50	23・45・52	神農講 個人名	
	⑥岩尾神社(加治谷)	—	—	—	—	—	—		
	⑦大年神社(大門)								
10	a	明治34	1901	高室	高室	24・58・55	25・45・54	個人名	
11	b	大正12	1923	神戸	高室	30・63・68	32・60・67	氏子中 家紋	
	⑧大歳神社(加治谷)	—	—	—	—	—	—		
	⑨愛宕神社(加治谷)	—	—	—	—	—	—		
12	⑩大歳神社(亀坪)	安政4	1857	高室	高室	26・48・56	26・46・55		
13	⑪田嶋神社(西野)	平成5	1993	領家	領家	25・54・56	26・52・68		岡崎型重
	⑫三十八社(吉田)								
14	a	平成6	1994	領家	領家	27・66・67	28・66・66	個人名 台座平成12	岡崎型
	b	大正6		—	六甲				
15	⑬八坂神社(八反田)	大正12	1923	山陽型	高室	28・60・66	28・60・64	氏子中 家紋	阿波型重
	⑭與井神社(中島)								
16	a	平成8	1996	領家	領家	28・62・73	30・63・73	ウシオ精工株式会社	
17	b			山陽型	—	26・58・80	28・58・80		阿波型重
18	⑮藤田神社(長目)	平成16	2004	領家	領家	34・64・74	34・64・73	氏子中	
19	⑯住吉神社(西光寺)	平成20	2008	領家	領家	32・62・69	36・65・69	台座下六甲で昭和29	岡崎型
20	⑰日吉神社(西大貫)	天保6	1835	神戸	山陽型	28・52・58	27・50・63		
21	⑱天満神社(東大貫)	天保10	1839	高室	高室	30・58・66	30・52・65	氏子中	
22	⑲大年・住吉神社(南大貫)	明治24	1891	撫養	高室	30・55・69	30・55・69	個人名	阿波型
	⑳愛宕神社(南大貫)	—	—	—	—	—	—		
	㉑大歳神社(余田)								
23	a	天明4	1784	高室	高室	30・58・62	31・58・68	氏子中 個人名	阿吽一一型
24	b			高室	—	28・(30・26)	—	阿のみ埋まっている	
	㉒大歳神社(余田新田)	—	—	—	—	—	—		
25	㉓地神社(庄)	大正2	1913	撫養	領家	22・45・58	23・42・55	個人名	阿波型
	㉔松永神社(庄)								
	a	大正15		高室	高室	20・46・57	20・47・58	狐	
26	b			高室	高室	10・22・23	10・21・23	小型	
	㉕大森神社(庄)	—	—	—	—	—	—		
27	㉖熊野神社(鍛冶屋)	明治29	1896	撫養	高室	26・50・69	28・48・69	氏子中	阿波型
	㉗若宮神社(小倉)	—	—	—	—	—	—	木造狛犬あり	

第十一回福崎町柳田國男ふるさと賞 小学低学年の部受賞

ひいひいおばあちゃんの時代へタイムワープ!

高岡小学校四年 尾崎 琴



◆ぎっかけ

ある日、お父さんが「ふみ子おばあちゃんは昔、ふるしきをせおって一年に一回だけ姫路へ買い物に行っていたらしい。」という話をしました。

自分のくらしとは全然ちがうと、おどろき、その時代の暮らしを調べてみることにしました。

◆参考にした人と物

- ・村のおじいさん(77歳)からのお話
- ・おじいちゃん(67歳)からのお話
- ・おばあちゃん(67歳)からのお話

◆家にあった古い写真



- ・昔の結婚式は家であげていた。
- ・おじいちゃんは「お魚これにー」をしたらしい。



- ・えんのしたでニワトリをかっていった。
- ・まどはサッシではなくしょうじだった。
- ・けむりぬきのある屋根だった。
- ・真ん中はひいおじいちゃん。海軍に行くところ。



- ・いつも着物姿でした。
- ・仕事するときには、モンペを履いていた。

【衣】

- ・着物を着てぞうりをはいていた。
- ・小学校にはせい服を着ている人もおれば私服の人もいた。



- ・服はたんもの(ぬの)を買って自分たちで作っていた。
- ・全部お下がりがだった。
- ・きつくなった着物は赤ちゃんのおむつとしてさいり用されていた。(おむつにはちょうどいいやわらかさだった。)

むつにはちょうどいいやわらかさだった。)

【食】

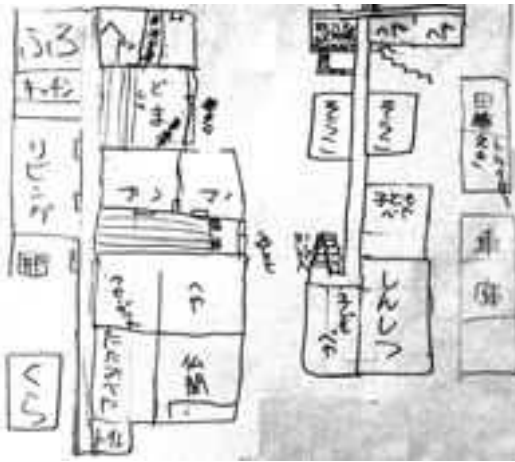
- ・田口には、おしょうゆさん、食料品屋さん、(やさいを中心にかけていた。つうしょう「とよちゃん」)、だがし屋さんの三けんがあった。
- ・お店の人が姫路まで行って買ってくるので売る時には今のようになせんではない。時間がとてもかかるから。



- ・畑や田んぼで作ったり、ヤギやニワトリをかって自給自足の生活。みぞでは、シジミやドジョウを、池ではたにし、フナを取って食べていた。
- ・バナナは高級品だった。病気の時しか食べられなかった。

【住】

- ・けむりぬきの家があった。
- ・百円というとすごく大きなお金だった。今ではカード一枚でお金が払える。
- ・家でカイコをかってる家もあった。
- ・電話はなかった。車もトラクターもなかった。電化製品もなかった。
- ・夏にはねるときかやはって、冬は湯たんぽ、まめたんで温めていた。



1階

2階

◆今の家

- ・じゃ口をひねると水が出てくる。
- ・ワンタッチでお風呂がわく



・牛で田んぼを
すき、女の人が
手で植えていた。
だから、ひいお
ばあちゃんたち
はこしが曲がっ
ている。

- ・井戸水で風呂をわかった。井戸水をくむのは子どもの仕事。飲み水も井戸からくんでいた。その後、ポンプが出来た。
- ・わらでむしろ、なわをあんでいった。
- ・ご飯、おかずもかまどで作っていた。

◆昔の家

- ・トイレが外にある。
- ・もう少し前は牛こやがあった。
- ・田んぼの仕事をしていた。



◆まとめ感想

- ・まとめ

物や食べ物全部自分たちで作っていることが多かった。自給自足でいるものは全て作って生活していた。今のように何でも使い捨てるようなことはしなかった。物を大切にしてい

長く使っていた。戦争もあったので特に物もなかった。

・感想

自給自足の生活で、ないところから作ってくらしていたんだなあと感心しました。子どもたちも労働力となり、みんな力であわせて生活していたんだなと思いました。

昔の子どもたちはきたえられて力が強かったんだろうなと思いました。今はとても便利な世の中になりました。その分、害も出ているのかもしれません。ふみ子おばあちゃんにあつたことないし、時代もちがうけど、これからもずつとこの家で昔のことも大切にしながら生きていきたいです。



ふみ子おばあちゃんと田代おじいちゃん
いでうれしかった。

第十一回福崎町柳田國男ふるさと賞 小学高学年の部受賞

神谷の伝統行事について

福崎小学校六年 家田 塔 羽



◆調べようと思った理由

ぼくは七月九日、日曜日に村の「夏祭り」に参加しました。天気が悪く雨だったので予定されていた「子ども相撲」は中止になりました。村の区長さんや役員さん達と神事（しんじ）だけ行われたので、ぼくは子ども代表として参加してきました。

神社の中にはお供えが飾ってあり、神社の一番奥の扉も開けてありました。神事後、御洗米、御神酒を近所のおばちゃん配ってくれました。ぼくが居るからかおじさん達が昔の話聞かせてくれました。びっくりするような話もあっておもしろかったです。なので、ぼくが住んでいる神谷の伝統行事を調べようと思えました。そのため、近所に住まれている色々な年齢の方にアンケートをさ

せてもらって、話を聞きに行きました。

神谷アンケート 8月4日 曜日 名前 ●●●● 49 歳

とんど	祭り	神事
お盆(はつう祭)	お盆の日に、お盆の踊りをする。	小豆の村なで。
夏祭り(いど)	夏祭りに、お祭りをする。	子供が遊ぶ。
神子の御用(おんごのせつ)	神子の御用をする。	お祭りをする。
夏祭り(こども相撲)	夏祭りに、お祭りをする。	子供が遊ぶ。
お盆(おぼん)	お盆の日に、お盆の踊りをする。	お祭りをする。
お盆(おぼん)	お盆の日に、お盆の踊りをする。	お祭りをする。
お盆(おぼん)	お盆の日に、お盆の踊りをする。	お祭りをする。

アンケートは20人から回答いただきました。その一部です。

◆夏祭り(子ども相撲・神事)

ござをしいて座った。山崎の神主さんが神様が通るために真ん中はあける方がいいことや座わり方を教えてくれた。お参りの仕方前にもしている人を見て覚えた。そして最後にぼくもお参りをさせてもらった。さかきを手元でくるとまわして供えて二礼二拍手一礼もした。(日本の神社の拝礼作法です。お辞儀を二度行い、二度手を叩き、最後にもう一度お辞儀を行う。)

神様には山のものとして野菜、海のものとしてスルメ、お酒、お洗米、お菓子が供えられていた。そして神社の奥には昔の鏡も供えられていた。

・行事内容

七月二十三日に大歳神社で行われる。「夏越の祓い」の一種で自社の境内などに大きな釜を据え、ササ東を持った宮司が煮えたぎる熱湯をそのササで自分の体にふりかけたり、四方にふりかけながら清めの祈禱をし、無病息災を祈る行事。祈禱が終わった後、持ち寄ったタオルを釜に浸して体を拭くと夏負けや病気にからないといわれている。神谷区ではこの行事の後に村の子どもたちによる子ども相撲が奉納されていたそう。現在は子ども相撲と神事のみ

されている。

・村の人の話

・田植えを村の人たちみんな協力して行い、その後にみんなでお酒を飲み労をねぎらっていたように思う。(76歳男性)

・相撲の取り組みが年上の人が多く、よく負けてた。でも楽しかった。(44歳男性)

・相撲をとるとお金がもらえてうれしかったなあ。(70代男性)

・男の子が少なくなってきた。今は女の子も相撲をとるようになった。(41歳女性)

◆トンド

昔は一月十三日に公民館で行われる。門松やしめ縄など正月飾りを燃やし、一年の無病息災を祈り厄よけを行う行事。

近年は一月第二日曜日の夜に行われている。

※ぼくは毎年、家族でトンドに行っています。書き初めを燃やして、高く燃え上がると、字が上手になるときいていて高く燃え上がれ!と思っていました。

・村の人の話

・昔は少年団があつて、中学生まで

の子どもたちで全て準備をしていた。木を組んだり、正月飾りも集めたりしていた。(76代男性)

- ・書き初めを燃やしたことを覚えている。(77代女性)



友達とおもちやマシュマロを焼いて食べるのが楽しい。

- ・子ども会が主体で現在は準備をしています。字がきれいになるように祈ったり、おもちを焼いたりして楽しいひとときです。(63歳女性)
- ・昔は弁天池で火を燃やしておもちを焼いていた。(55歳男性)

◆ 斎灯・柴灯 (さいと)

二月三日に大歳神社で行われる。節分は「神様の正月」といい、青年たちがお宮の枯れ木を集めて夜通し火をたく。夏負けしない、病気にかられないといい、うしみつ時(午前

二時)にお参りする。この時、途中でだれに会っても言葉をかわさない。昔はナントウといって銭十二銭、米一升二合をこもで巻いた手おけに入れ、神前に供えた。「[兵庫探検]より」近年は、青年が中心となり組織した盛年会でうどん・そばをふるまっている。



・ 村の人の話

- ・木のまわりで遊ぶのが楽しかった。(57歳男性)
- ・うどんやそばがおいしかった。(17歳男性)
- ・子どもからお年寄りまでみんな楽しめる行事。(70歳男性)
- ・昔は老人会が準備をしていた。(76歳男性)
- ・大人も子どもも一緒に火にあたりながら、うどんやそばを食べました。(48歳男性)

◆ 初午 (はつうま)

昔は二月十一日に大歳神社で行わ

れていた。(今は二月十一日前後の日曜日に行っている。)春の農事に先がけて豊年を祈る祈年祭の意味で行われている。

この祭りの時には子ども相撲はとられるが、本来、相撲は豊年の年占いとして行われていた競技で、現在でも神事の際に行われることが多い。神谷区の初午でも子ども相撲が行われる。

・ 村の人の話

- ・一回十円くらいもらって相撲をとった。(57歳男性)
- ・お宮さんののほりを立てて子どもが相撲をとった。(63歳女性)
- ・子どもの頃、相撲をとったらおこづかいがもらえた。(78歳男性)
- ・相撲をとる度に五十円ずつもらえるのがうれしかった。(17歳男性)

◆ 地藏盆

八月二十三日に大歳神社で行われる地藏祭(地藏盆)は、村の入り口や辻にある地藏尊を提灯などで飾り、だんごやお菓子を供えて奉る行事であり、もとは旧暦七月二十四日(新暦八月二十四日)が盆祭りの終わりの日であり、それが地藏菩薩の縁日といわれる二十四日と一緒になると伝えられる。地藏さんは、子ども

を病気や災難から守ってくれるものであり、この日の行事も子どもを中心としたものが多く残っている。現在は八月二十三日に医王寺で読経があり、参拝したり、盛年会が中心となり流しそうめん、消防団がかき氷等、村の人たちが集まる行事となっている。



・ 村の人の話

- ・花火や爆竹をして遊んでいた。(55歳男性)
- ・材料集め(赤飯の)赤飯を参拝した人に配るなど少年団がしていた。提灯を階段に準備もした。(58歳男性)
- ・提灯のろうそくの火の番をしながらわいわいさわいで夜おそくまで楽しく過ごしていた。(44歳男性)
- ・昔は男の子のみでしたが、今は男女一緒に、お寺、盛年会の皆さんの協力で流しそうめんなど楽しいひとときです。(63歳女性)

◆ニジュウソ

「ニジュウソ」は旧暦十一月二十三日に行われており、主に稲荷社を中心として行われていた。神谷区では十二月十七日に行われる。大歳神社お稲荷さんの前で小学生の奉納相撲が行われ、相撲をとった子に赤飯がふるまわれる。一回相撲をとったら五十円もらえる。

同級生や姉、年上の人には本気で相撲をとっていた。名勝負をした時には、見る人が応援をしてくれたり、笑っていたり、とても楽しい。小さい子とする時はわざと負けてあげたりして自分がしてもらっていたようにしている。



・村の人の話

一回十円もらって相撲とっていた。(50歳男性)

言葉の意味も含めてお年寄りに聞くことが必要な。(70歳男性)

いわれがよくわからない。昔から相撲をしている。(66歳男性)

一年最後の午の日に相撲をとっている。(73歳女性)

◆秋祭り【福崎地区】

秋祭りは福崎地区、高岡地区の屋台十三台(布団屋根型六台、神輿屋根型七台)が二之宮神社に集まり盛大に行われる。宵宮は昼に蔵から屋台を出して村の中を練り歩き、区長宅、消防団長宅、新乗り子宅等をもわる。



神谷は小学二年生が新乗りになる。新乗子の時に家に来てもらって、みんなでジュースやオードブルを食べた。

本宮は、昼頃から宮元である山崎屋台が十二台の屋台をJR福崎駅前

へ迎えに行く。福崎駅で練り上げられた後、山崎屋台を先頭に福田区↓

馬田区↓新町区↓神谷区↓長野区↓

西治区↓西谷区↓高橋区↓桜区↓板

坂区↓田口区↓駅前区の順に二之宮神社に宮入りをする。拜殿で神事が

行われ、五穀豊穡が祈願された後は、駅前屋台から宮出しが行われる。山

崎の木方による合図で一斉に屋台が動きだし練り合わせを行う。「十三台サラバ練り」は見所である。

小学校の運動会が終わってから、公民館で伊勢唄の練習をします。

神谷の太鼓や伊勢唄を教えてください。人は教え方がとても上手です。だからみんなすぐに上手くなります。(平成二十四年から女の子も乗ることになりました。)



屋台蔵から出したら、まず大歳神社に行きます。坂道をみんな力を合わせて登っていきます。

昨年はコロナが流行っていたので、

刺繍がしてある幕をせずに村の中だけを練り歩きました。



・村の人の話

・乗り子はしんどかったけど楽しかった。消防団は準備から練習が大変だった。終わった後は充実感があつた。(57歳男性)

・昔は駅前から屋台をかついで行っていた。(76歳男性)

・小さい村ですが、みんなで協力して屋台を出しています。お昼は乗り子の母がつくるおにぎりとおでんが用意されています。(63歳女性)

・中学三年まで乗り子として乗っていた。楽しかった。(44歳男性)

昔は二年に一度屋台を出していた。青年団の頃、屋台を出してほしいと小学生に頼まれて区長宅にお願ひしに行った事を覚えている。(78歳男性)



◆神谷についてのまとめ

神谷は小さな村です。小学生は九人だけです。人口は男七十二人、女八十七人、合計百五十九人世帯数は六十五件、福崎・高岡校区の中で一番小さい村です。小さい村だけど昔から行われている伝統行事はたくさんありました。漢字が分からない行事もあったけど、ぼくは色々な人と昔の話を聞けておもしろかったし、楽しかった。ぼくもそうやって伝統行事を受けついで伝えていきたいと思いました。

- ・村の人に聞いた神谷のいろいろ
- ・小さい村だがまとまりがある。
- ・子ども同士仲が良く、子ども会の行事も全て楽しかった。



- ・ひのき山からの村の景色が好きです。
- ・みんながみんなを知っていて安心してくられます。
- ・他のどこの村にも住みたいと思いません。
- ・お互い助け合いの気持ちが強く、協力的である。
- ・小さい村の割に神社が立派
- ・神谷区の文化が継承されている所
- ・少ない世帯人数であるからこそその一体感
- ・村民が協力しあって支えあっている。

・子どもの頃から色々な行事に参加できて、他の村では体験できないことがたくさんあります。

ぼくは神谷の伝統行事について調べて、今まで以上に神谷のことがい村だと思つたし、感じるようになりました。少ない幼なじみの子たちと大きな神谷の伝統を語りついでいきたいと思いました。

柳田國男ふるさと賞は
ホームページからも
ご覧いただけます。



柳田國男ふるさと賞

福崎町が生誕の柳田國男先生は生前、「日本人とは何か」という問いの答えを求め、日本列島各地に赴き、その地の民間伝承等を調査、研究され、日本民俗学の確立に貢献されました。

その先生の功績を称え、町では小中学生に、より深く民俗学を学んでもらおうと平成25年度から「福崎町柳田國男ふるさと賞」を創設しました。

このふるさと賞は、夏期休暇などを利用し、自ら、郷土の歴史やそこに伝わる伝説・習俗などを調査、研究しまとめられた作品の中から優れたものに贈られます。

今回は11回目を迎えることとなりましたが、今までの作品をみると、今、調べて残しておかないといずれ忘れられてしまうだろうと思われる貴重な作品がたくさんあるのに驚かされます。

第2の柳田國男が誕生することを願い、郷土に愛着と誇りを持つ子どもにも育つてほしいと創設した賞ですが、その副産物として、多くの作品が町の貴重な資料になっています。

このふるさと賞に参加いただいた皆さんに感謝を申し上げますとともに、引き続き柳田國男ふるさと賞への応募をお待ちしております。

福崎町の地形と地名

福崎東中学校二年 田畑

駿



一、はじめに

小学生の時、田原地区の小字の研究を通して、地名はその土地の地形が由来となっていることが多いことを知りました。中二の地理の授業で、「盆地」「扇状地」など色々な地形について学び、自分の住む福崎町の地形に興味を持ちました。福崎町の地名（小字）と地形にはどのような関係があるか調べてみようと思ったことが研究のきっかけです。

二、小字について

町役場に保管されている土地台帳に記されている地名のうち、最も狭い範囲を小字と読んでいます。（一八七三年【明治六年】の地租改定以前には、現在の小字名の範囲の中より小さい区画の地名がいくらか含ま

れていたそうです。）小字名はその土地の地形、土質、植生状態、集落からの遠近、土地の利用状態、所有者、地物の有無などによって名づけられるので、小字を調べれば、その土地の昔の様子、土地と人との関わりを知る手がかりになります。



三、地名の由来

地名が名づけられる要素として、次のような五大要素があります。

①地形地勢

地名の由来として最も多いのは、その土地の地形や地勢（土地のありさま、状態）を表す言葉です。古くからある地名は音（読み）が先にあり、平安時代以降に漢字で表記する方式で記録されるようになりました。あとから字をあてたため、同じ音読み

でも文字が違う地名が全国にたくさんあります。山、川、野原、坂、谷（沢）、海岸、岬の七種類の地形にちなんで名付けられることが多かったそうです。

②象徴的なもの

その土地にある象徴的なものが地名になることがあります。例えば「○○岩」「○○橋」「○○城」「○○寺」などです。ただし、由来になったものが失われたり、場所が移動したりして今はその土地が、存在しないこともあります。

福崎町の小字の中にも「北山城」「山城」といった今は存在しない城に関するものがあります。

③人名

その場所に屋敷があつたり立ち寄った著名人の名前が由来となります。地方では豪族や大地主の名前がそのまま地名になっていることも多くあります。

④合成地名

複数の地域や村を合併するときそれぞれ地域から文字を取り、新たに地名になることがあります。「福崎町」は「福田」と「山崎」からそれぞれ一文字を取って作られた合成地名です。

⑤新しい地名

新たに開拓が行われたり、市町村

合併などにより、全く新しい地名が付けられるケースがあります。元々の地名とはまったく違うイメージの良い名前をつけることがあります。

四、福崎町の地名と地形

福崎町の地名と地形について次のことを調べました。

・福崎町の地名のうち、地形や地勢が由来となっているものはどのようなものがどれくらいあるか？地形・地勢がもたらした地名と実際の地形を比較するとどういう関係があるか？

◆調査の手順

- ①地形・地勢が由来の地名にはどんなものがあるか調べる。
 - ②福崎町内の小字を一覧にする（福崎町史の「福崎町小字図」からひろいあげる）
 - ③それぞれの字の小字の由来を考え、種類ごとに分類する。
 - ④小字が示す地形の種類ごとに色分けした地図を作る。
 - ⑤④で作った地図と地形を示した地図（国土地理院）を比較する。
- ◆調査の結果
- ①地形地勢が由来の地名にはどのようなものがあるか、調べた結果をまとめたものが次の表です。

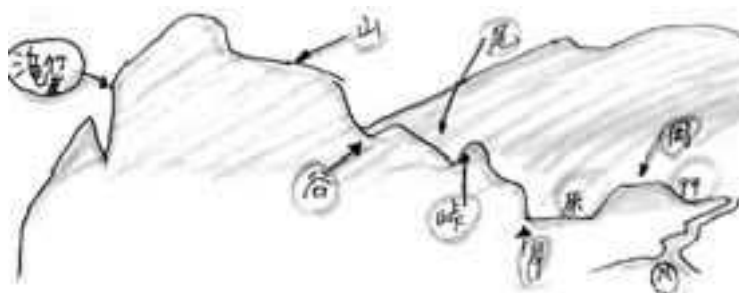
大字ごとに地名を集計しました。それが次の表です。パソコンの表計算ソフトを使って作りしました。

地名	どのような土地か
山	山間部
滝竹嶽崖	タキ(滝)がタケ(竹)タカ(高、鷹たか)になっているところもある
尾	山の裾の伸びた所
谷	「谷」とは山と山の間の地形のこと。隣り合う土地より低い場所であり、川が流れていた痕跡と見る場合も。現在も低地で雨が降ると冠水してしまうなど、水害にあいやすいエリアかもしれません。
岡	オカはオ(表・峰)・コ(処)の転で少し高くなって目立つ平らなところを表す。
峠	「とうげ」の語源は尾根の鞍部になっている「たわ(橋)んだところ」を越えていく場所だから「かわごえ」となり、「とうごえ」そして「とうげ」となった。
岸	海岸線だけでなく、大きな地形の端を意味する。地形の変わり目を意味する。山と平地の境目を岸といった。
坪	坪は平らな土地を表し、奈良時代の条理制による区画された土地の名残と考えられます。

地名	どのような土地か
野	人里ではない。草や低木が入った。開かれていない土地。
原	柳田國男によると「原は広い平野」。一方、「はら」は「はれ(開・墾)」で開拓地という考え方。
平	「田井」「台」などとされる場合がありますが、河川周辺で段上の平地である可能性があります。「ひら」が「崖・急傾斜地」である地域も多く、山間部の地滑りによって形成された緩斜面の場所に使われるケースもあるそうです。
川	
浦	海や湖、川などにそった一帯の地／きしべ／大きな川小さな支流
島	水害にあったときに島のように土地が残る微高地／川沿いの耕地／一つの集落
河原	川の流れに沿う平地において、普段は水が流れていない砂や石の多いところ
水・池	

大字名	小字数	地形・地勢に関するもの														象徴的なもの					位置を表すもの					
		山	尾	竹・滝・嶽	谷	岡	峠	岸	坪	野	原	平	川	浦	河原	島	水	池	田・畑	木・植物(岩等)		人工物(寺・屋敷等)	場内	その他		
馬田	5	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	1	0	2	
福崎新	12	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	0	6	2	1	3	0	7	
高橋	20	15	4	2	2	4	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	6	1	0	5	0	0	9	
福田	38	10	1	0	1	1	0	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	1	24	8	3	8	4	2	16	
山崎	39	11	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	1	0	22	7	6	6	3	1	9
八千種	121	64	9	1	1	21	2	0	0	1	13	2	2	4	0	0	0	7	45	14	10	12	9	1	45	
大貫	65	28	3	2	2	9	1	0	0	1	2	4	0	0	0	0	0	2	22	10	5	5	2	0	19	
西田原	59	20	4	0	1	3	4	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	38	20	1	14	3	0	42		
南田原	68	28	3	0	0	0	1	0	1	0	2	13	1	0	3	0	0	1	41	21	3	9	6	1	37	
東田原	54	27	3	2	0	9	2	0	0	1	2	1	0	2	1	0	0	1	20	7	1	9	2	0	24	
田口	25	12	2	0	0	6	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	5	1	5	2	1	5		
高岡	100	46	10	2	2	17	2	1	1	1	0	2	0	1	1	0	0	4	45	11	10	18	6	2	39	
西治	81	42	4	1	0	24	1	1	0	2	3	2	1	1	0	2	0	2	25	15	2	10	1	0	32	
合計	687	310	46	10	10	96	14	4	4	8	42	13	5	15	3	3	1	5	22	310	121	44	105	39	8	286

大字名	小字数	地形・地勢に関するもの														象徴的なもの					位置を表すもの			
		山	尾	竹・滝・嶽	谷	岡	峠	岸	坪	野	原	平	川	浦	河原	島	水	池	田・畑	木・植物(岩等)		人工物(寺・屋敷等)	場内	その他
馬田	5	40%	20%	20%														40%	20%	20%	20%			40%
福崎新	12	42%									8%	8%						50%	17%	8%	25%			58%
高橋	20	75%	20%	10%	10%	20%					10%	10%						30%	5%	25%				45%
福田	38	26%	3%		3%	3%					3%	5%						63%	21%	8%	21%	11%	5%	42%
山崎	39	28%	5%			5%					5%							56%	18%	15%	15%	8%	3%	23%
八千種	121	53%	7%	1%	1%	17%	2%				1%	11%	2%	2%	3%			37%	12%	8%	10%	7%	1%	37%
大貫	65	43%	5%	3%	3%	14%	2%				2%	3%	6%					34%	15%	8%	8%	3%		29%
西田原	59	34%	7%		2%	5%	7%				2%							64%	34%	2%	24%	5%		71%
南田原	68	41%	4%				1%				1%	3%	19%	1%				60%	31%	4%	13%	9%	1%	54%
東田原	54	50%	6%	4%		17%	4%				2%	4%	2%					37%	13%	2%	17%	4%		44%
田口	25	48%	8%			24%	4%				8%							56%	20%	4%	20%	8%	4%	20%
高岡	100	46%	10%	2%	2%	17%	2%	1%	1%	1%	0%	2%						45%	11%	10%	18%	6%	2%	39%
西治	81	52%	5%	1%		30%	1%	1%			2%	4%	2%	1%	1%			31%	19%	2%	12%	1%		40%
合計	687	45%	7%	1%	1%	14%	2%	1%	1%	1%	6%	2%	1%	2%				45%	18%	6%	15%	6%	1%	42%



分かったこと

- ・ 小字八千種最多(数)
- ・ 一番多く使われている地名は「谷」。
- ・ その次に多いのは「山」、その次は「野」
- ・ 「地形に関する地名」と「象徴的なものを表す地名」は同じくらいの割合だった。
- ・ 一つの地名でも複数の地形を表す場合がある。
- ・ 山に関する地名は高岡と高橋に多い。
- ・ 川や水に関する地名は福崎新に多い。

五、地名が示す自然災害の危険性

地名の由来について調べていく中で、地名にはそれぞれの地域の歴史を反映しており、その中には過去にあった災害について反映しているものもあることが分かりました。例えば地名に「桜」「梅」「椿」とついていると、花が咲いていてきれいな場所のように思えますが、実際には災害の危険性を示している可能性があります。

「桜」は『裂ける』に通じ、土砂災害の危険性がある。山間部では主に豪雨でくずれやすい土地の場合がある。「梅」は『ウメル(埋)』に由来して埋立地に使われる。「椿」は切り取るという意味の『ツバエル』を由来にして崩壊地形の地名になっていたりする。地名には過去に災害があった人の「ここは危ない」というメッセージが込められているものだと思います。

液状化	土砂崩れ	水害
鮎・梅・馬・鳥など	蛇・猿・柿・栗・椿・桜・萩・小豆・倉・牛・板など	釜・女・駒・滝・袋・龍・竜・灘・猿・黒・江など

・自然災害の危険性のある地名について調べてみました。
 福岡町の小字の中にも同じものがあつたので現地調査をしました。また、実際に災害の危険性があるかどうか、福岡町防災地図で小字の場所を確認してみました。

NO	大字名	小字名	区域	感じたこと
①	高岡	蛇々谷	土砂災害警戒区域(土石流)	近くに神戸医療未来大学が建っており、昔とは地形が変わっていると思う。土がむき出しの部分があり、危険。
②	福田	焼小豆	土砂災害警戒区域(土石流) 家屋倒壊(川岸浸食)	「小豆」は「土砂災害のある所・崖崩れなどが起こりやすい地に多い地名」だそうです。現地は川の横でした。
③	高岡	桜元	家屋倒壊(川岸浸食)	「焼小豆」の川をはさんだ反対側でした。
④	西治	堀越		道路の両側がくぼんでいた。
⑤	西治	芦谷	土砂災害警戒区域(土石流)	「芦」は「悪し(アシ)」が由来のこともある。近くに芦谷池があり、でこぼこした感じ
⑥	高橋	飛越		「越」は洪水などで「越えてきた」ということが由来の場合がある。香寺町に続く山道があつたので村と村を越えるという意味？
⑦	南田原	中蔵ノ北	洪水浸水想定区域(50cm)	「蔵や倉(クラ)は「挟る」(えぐる)に由来。現地は幼稚園のある場所で危険はなさそう。建物の蔵があつたのかも。
⑧	南田原	ハツグロ	洪水浸水想定区域(50cm)	
⑨	西田原	蔵垣内	洪水浸水想定区域(50cm)	ふつうの住宅地
⑩	西田原	樋越	洪水浸水想定区域(50cm)	ふつうの住宅地
⑪	東田原	倉谷口	土砂災害警戒区域(土石流)	雨が降ると土砂崩れがありそうな感じがした。
⑫	大貫	倉谷	土砂災害警戒区域(かけ崩れ) 山腹崩壊危険地区(かけ崩れ)	東大貫公民館の近く。山の方まで歩いて行けなかった。
⑬	大貫	牛嶋		
⑭	八千種	高倉	崩壊土砂危険区域(土石流)	山の高い位置にあつた。
⑮	八千種	牛房谷	山腹崩壊危険区域(かけ崩れ) 土砂災害特別警戒区域(かけ崩れ)	春日山のももどぞい、防災地図でも危険度が高い。
⑯	八千種	久保木		フェンスがあり立ち入り禁止でした。

※表中の位置(NO)については次ページの地図内に表示



六、地名と地形の関係性

小字が示すと思われる地形を
 実際の地形（標高図）と比較して
 一致していたわけではないが、
 大まかに見て一致している部分
 が多かった。
 特に災害の危険性の可能性が
 考えられる小字は
 福崎町防災地図の危険区域と
 多くが一致していた。
 地名の多くが地形から名付けられており、
 地名は人々にとって重要なもの
 だと思う。

小字が示す地形の種類ごとに地図を色分けした。

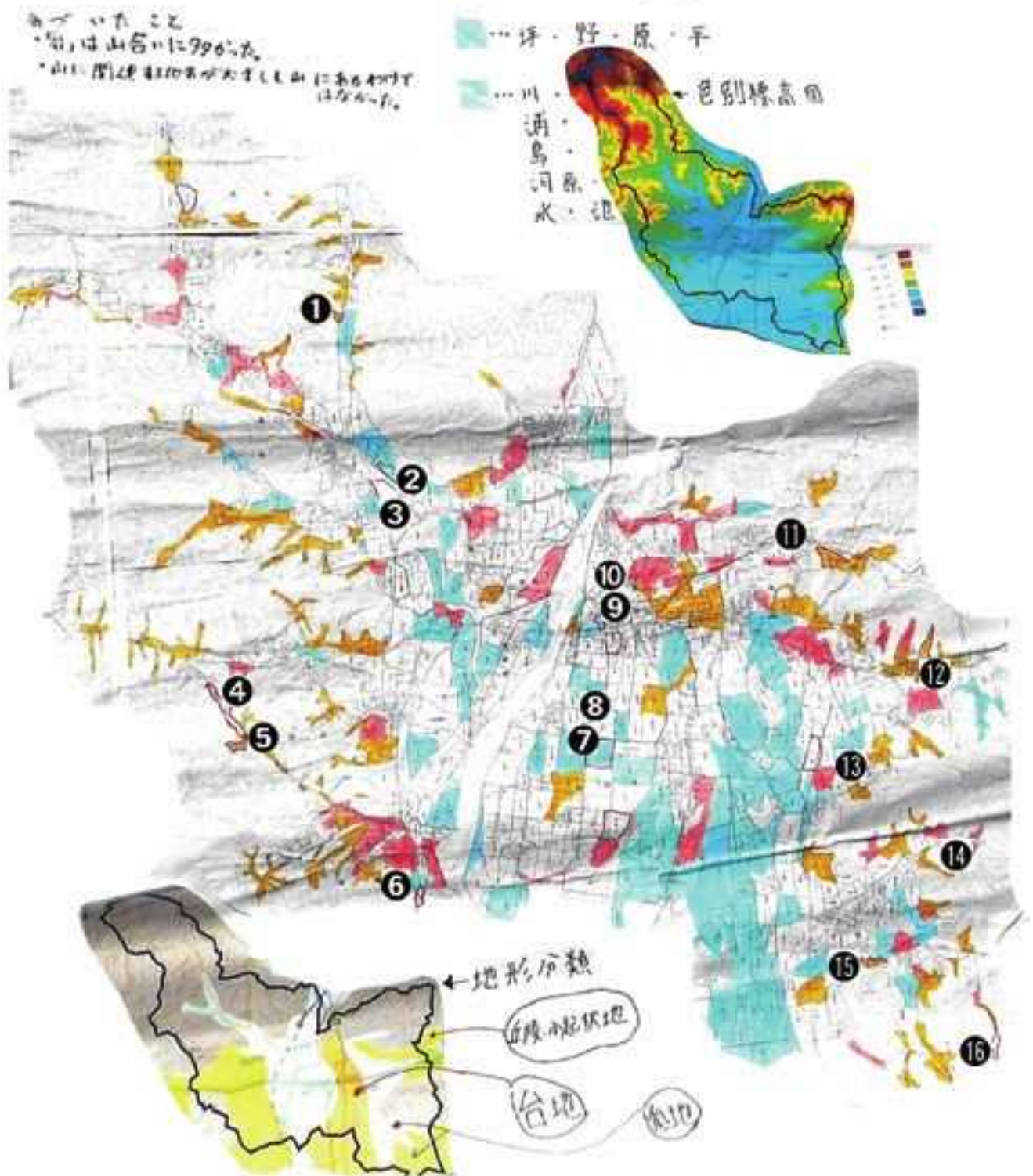
山・滝・竹藪・崖・尾

谷・田・峠・岸

坪・野・原・干

川・池
 湖・島・河・水

色別標高図



公民館クラブ会員募集

町には住民の教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進を目的とした社会教育法に基づく公民館が2つあります。一つは中央公民館として文化センターがあり、もう一つは分館として八千種研修センターがあります。この両施設や地域の公民館などを利用して住民が生涯を通じて趣味や教養に自主的に取り組む多くの団体が活動されています。

現在、コーラス、吹奏楽、箏曲、詩吟、書道、舞踊、パッチワーク、パソコン、短歌、フラダンス、英会話、中国語教室、将棋、囲碁など、多数のクラブが活動され、定期的に公民館で発表されています。

各クラブは、それぞれで会員を募集しています。知識・技術を習得したい、その成果を地域へ還元したい、活動を通じて友人を増やしたい、等と思われる方は是非、挑戦してください。

また、新たにクラブを作って活動したい方も要件さえ満たせば、文化センターなどの施設を有利な条件で利用できます。是非お問い合わせください。

問い合わせ先 公民館クラブ事務局
(文化センター内)

2213755



第四十二回 福崎町美術展作品募集

第四十二回福崎町美術展(公募展)の作品を募集します。

皆様方のご応募を心よりお待ちしております。

会期 令和六年

六月七日(金)～

六月九日(日)

会場 福崎町エルデホール

主催 福崎町・福崎町教育委員会

部門 日本画・洋画・書・写真・彫

塑工芸

応募は一部門一人一点、未発表の作品に限る。

作品搬入

令和六年六月一日(土)

午前九時～午後四時

審査員

日本画 島田 直季

洋画 井上 よう子

書 立山 艸雪

写真 しみず いさを

彫塑・工芸 石井 宏志

山桃忌奉賛

第三十九回短歌祭作品募集

柳田國男先生と井上通泰先生の命日にちなみ、両先生を偲ぶ会として、毎年八月に柳田國男・松岡家記念館により山桃忌が行われています。

短歌祭は文化協会と福崎短歌会により、山桃忌の当日に行っています。

本年の短歌祭は、左記の要領で作品を募集します。

記

日時 令和六年八月三日(土)

場所 福崎町文化センター

主催 福崎町文化協会・

福崎町短歌会

作品 未発表のもの・一人二首以内

応募料 一首につき五百円

要領 原稿用紙に楷書で縦書き

宛先 福崎町文化センター内
文化協会事務局 宛
締切 令和六年六月三十日(日)

表紙の写真

《法師武者》

「三月十五日 日本画科二年 松岡輝夫」の表書きから、明治33年に東京美術学校時代の映丘が描いた作品であることが分かります。

映丘が好んで題材に選んだ『平家物語』では、白河法皇を悩ませるものとして、「賀茂川の水、双六の賽山法師」を挙げています。寺院に属しながら立派な甲冑や太刀で武装した法師の姿を描いた作品です。



編集後記

たくさんの方々のご協力により福崎町文化第四〇号を発刊することができました。寄稿いただいた皆様、校正等にご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。